

事務事業名	《H22新規》白根1号線・29号線道路維持事業(補助)		所属部局	建設部		単位番号	7121	
			所属課室	道路整備課		課長名	入倉隆士	
	☐ 実施計画事業		所属担当	維持担当		担当者名	時田一直	
基本政策	基本計画体系	III うるおいと利便性のある都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目
政策	11	道路網の整備	事業区分	01	一般	0	8	0
施策	18	生活関連道路の整備			2	0	1	0
					4	0	0	4
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 年度)		法令根拠					
	☒ 期間限定複数年度 (23 年度)							
事務事業の概要	事業の内容…期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 道路の利便性の維持向上を図り、市民生活の安全性、快適性を確保するため。 ・白根1号線 実施設計 L=710m ・白根29号線水路工事 L=150m			事業費の主な内訳 (22年度)				
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)	
				測量設計	4,626			
				維持補修工事	15,411			
						計	20,037	

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	22年度活動実績	早期完成を目指す 測量設計及び工事
	23年度活動予定	早期完成を目指す 測量設計及び工事
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	・道路利用者 ・市民	
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	・安全に通行できるようになる ・快適に暮らせるようになる。	
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	・安全に通行できるようになる ・快適に暮らせるようになる。	

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 施工延長	m
	イ	
	ウ	
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 人口	人
	イ 人口	人
	ウ	
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 改修済み延長/総延長	%
	イ	
	ウ	
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 道路整備に関する住民の満足度	%
	イ 生活整備に関する住民の満足度	%

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費 内訳	国庫支出金	千円		1,915	15,823			
		県支出金	千円						
		地方債	千円		17,200	49,500			
		その他	千円						
		一般財源	千円		922	2,677			
	事業費計 (A)		千円	0	20,037	68,000	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人		1				
		延べ業務時間	時間		70				
		人件費計 (B)	千円	0	312	0	0	0	0
	(A)+(B)		千円	0	20,349	68,000	0	0	0
活動指標		ア	m		80.0	1,020.0			
		イ							
		ウ							
対象指標		ア	人		72,869.0	72,984.0			
		イ	人		72,869.0	72,984.0			
		ウ							
成果指標		ア	%		100.0	100.0			
		イ							
		ウ							
上位成果指標		ア	%		100.0	100.0			
		イ	%		100.0	100.0			

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	地区要望にて実施
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	安全に通行でき快適に暮らせるように
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	安全に通行でき快適に暮らせるように

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	現場状況を地元代表に聞き設計施工に取り組む。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	現場状況を地元代表に聞き設計施工に取り組む。

事務事業名	《H22新規》白根1号線・29号線道路維持事業(補助)	所属部	建設部	所属課	道路整備課
-------	-----------------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価(Check1) 担当者による事後評価(複数年事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由↓] 道路利用者の安全確保を図ることにより上位目的との整合性がでる。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由↓] インフラ整備の一つでもあるので、公共事業として行うのが妥当である。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由↓] 道路利用者の地域住民のうおいと利便性の向上を目的に進めているので妥当である。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由↓] 必要最小限の人員と時間において執行しているので余地がない。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒ [理由↓] ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容↓] 地域要望であるため出来ない ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由↓] 地域要望であるため出来ない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 積算システムの運用及び事務事業の精査によるコスト縮減に努めている。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 積算システムの運用及び事務事業の精査によるコスト縮減に努めている。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由↓] 広域路線網の整備であり、受益者は市民全体となるため公平、公正である。

3 評価(Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	まちづくり交付金事業については白根地区が平成23年度が最終年度となり白根1号線・白根29号線道路維持補修については昨年に引き続き工事を適切に実施していく。特に白根地区の長年の懸案であり水路改修であるので23年度完成する運びとなった。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
① ② ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① ② ③	成果優先度評価結果 ④ コスト削減優先度評価結果 ⑨																					